




**若葉小
だより**

令和6年3月1日発行

号外
江別市立野幌若葉小学校
校長：高橋 秀人
Tel 385-3131
Fax 385-3132

学校教育目標
「生きる力を育むために」
自ら考え すすんで学ぶ子 (自立)
心豊かで 共に生きる子 (共生)
心身共に健康で 鍛える子 (健康)



野幌若葉小学校ホームページ <https://www2.ebetsu-city.ed.jp/wakaba/>

江別市立野幌若葉小学校 自己評価及び学校関係者評価の結果より

2月1日(木)に第3回学校運営委員会を開催いたしました。今年度の野幌若葉小学校の教育活動について評価をいただき、学校運営委員の皆様からのご意見も含め、以下のようにまとめました。ご意見等のところは、学校運営委員会で熟議した内容も含まれています。なお、評価書についても野幌若葉小HPに掲載します。

1 学校経営について（主体的・対話的で深い学びの実現、効果的な教育活動の推進する働き方改革の実施）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> ICT等も活用しながら工夫して授業改善を行い、学びの保障を進めた。NRTや全国学力・学習状況調査の結果分析等も踏まえ、学力向上委員会を定期的で開催し、統一した指導を進めた。 「勤務時間を意識した働き方」や「業務の効率化、スリム化」の取組が進んだ。平均時間外勤務について昨年度と比較すると、4～7月では5時間、8～12月では3時間短縮されている。 ◎学校改善プランにおける指導を組織的に継続して取り組んでいく。また、合同授業や交換授業、少人数指導等も取り入れ、改善ポイント意識して推進していく。 ◎会議等の運営をさらに工夫するなど、業務においてスリム化、効率化、平準化を進め、効果的で質の高い教育活動が推進できるように働き方改革に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○野幌若葉小学校としての冷静な自己評価の数々、それに対応した具体的な改善策がよい。コロナやインフルエンザ同時流行等の中、校長を筆頭として一丸となって取り組んでいる様子がよくわかった。 ○現実的に働き方改革を推進することは簡単ではなく、時間外勤務を削減するには学校側だけではなく、PTAや各家庭の協力や理解が必要である。そのために、まず実態をもっと広く情報提供し、現状を各家庭に知ってもらおうのも一つの試みであると思う。

2 学習指導（「対話」を重視した授業改革による資質・能力の向上、ICT（タブレット端末等）の有効活用、特別支援教育の充実等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症から類へと移行し、子どもたち同士の交流や関わりが制限無く行えるようになった。校内研究でも国語科における「聞く」「話す」を重点に対話を重視した授業づくりを進めてきた。 「えべつ情報活用能力を育む学習プログラム」を基に、特に低学年は、タブレット端末に慣れるところからスタートし活用を進めた。また、協働的な学びを進めるためのツールの一つとしてタブレット端末の「スマイルノート」を活用した。 特別支援教育コーディネーターを中心に情報を共有し、組織的な支援体制を強化して指導を進めた。 保護者や各関係機関との連携を強化し、対応の充実を図ってきた。 ◎今後も授業改革を進めていき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進していく。 ◎他者の考えを知り、自分の考えを深めるための効果的な活用方法について今後も研修を深めていく。 ◎個別の支援を充実させるために、さらに組織体制を改善し、個に応じた指導方法を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTの活用など、多方面に渡り、工夫された授業や取組がされており、すばらしいと思う。 ○タブレット端末の持ち帰りについて、単一な宿題だけではなく作成的なものがあるとよいと思う。宿題以外のことで使用するのをためらっていることもあるのもったいないと感じる。 ○廊下に展示されていた、図工の作品のレベルの高さに感心させられた。今の学校はタブレット中心かなと勝手に思っていたが、そればかりではないと実感した。

3 生徒指導（規範意識や基本的な生活習慣の定着、好ましい人間関係の確立等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> 中学校区での生活のきまりに基づき、4期に分けて共通した目標を設定し意識の向上を図ってきた。また4校で時期を合わせたあいさつ運動も実施した。廊下歩行や教室移動の際に、落ち着かない面もあった。 いじめ対策委員会、いじめアンケート（3回）、学年部会、週1回の職員集会、生徒指導委員会等を生かし、情報を共有し、素早く組織的に対応した。 校内適応指導教室を運用することにより、家庭や各関係機関と連携し子どもの居場所づくりを進めた。 ◎今後もあいさつや廊下歩行、チャイム席、姿勢など、目標を焦点化して指導していく。 ◎発達支持的生徒指導を基盤とし、共感的な人間関係と援助希求的態度の育成、自己有用感を高める指導を行う。 ◎各関係機関と連携し、個別相談や定期的なケース会議の実施等、きめ細やかな対応を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○廊下歩行や挨拶について、児童の休み時間の様子を見てみたい。学校運営委員の授業見学の際。 ○本人が言われたりされたりして嫌だと思ったことは、いじめとして認知し、どのような状況だったのか丁寧に聞き取りをして、いじめ解消に向け、寄り添う指導をしているとのことである。未然防止と早期発見「いじめ見逃し0」のため、日常的に引き続き教育活動を進めてほしい。

4 健康な体作り（体力向上に向けた具体的実践、安心安全な教育環境の充実等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> • なわとび検定や外部講師による走り方教室や体幹を鍛えるエクササイズ等、体力向上のための取組を進めた。 • 新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したが、引き続き感染症対策（手洗い・換気等）に留意しながら教育活動を進めてきた。 • 熱中症対策、熱中症警戒アラートの確認と熱中症指数モニターの活用、スポットクーラーの活用、水分補給の呼びかけなどの取組を進めた。 • 校外外で安心安全な教育活動が進められるよう、危機管理体制の再確認と不審者対策等の研修を実施した。 <p>◎新体力テストの分析から「体力向上プラン」を今年度中に作成し、授業改善や運動の機会の増加、体力向上への意識を高め取り組めるようなさらなる環境整備を行う。</p> <p>◎情報を素早く共有し、組織的な対応を進める。保護者や地域と協力・連携のもと、校内外の施設点検や物の整理整頓、見守り活動の強化等、安心安全な教育環境の整備を進める。</p> <p>◎食に関する指導や衛生管理、健康な体づくりを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市内の中でも体力が低い原因がどこにあるか、江別市というせまい地域で、地域差が出ると思えないので、たまたま体力のない子が多いのかなとも感じた。食育や体育等を通して改善できるとよい。 ○多くの児童や先生方がマスクなしの生活をしていることにうれしく思う。合わせて感染症対策もしっかりされていると感じているので安心している。 ○せめてスクールゾーンだけは除排雪をしっかりとやっていただきたいと思う。近所の住人はスペースができたと思って道路に雪を出しているように見受けられるのでやめてほしい。自治会としても呼びかけが必要と思う。 ○学校内の暑さ対策や通学路における除排雪対策など、学校だけでは解決できない問題も多いと思うが、引き続き取組をお願いしたい。

5 保護者・地域から信頼される学校作り（情報発信、地域の教育資源活用等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> • 参観や懇談、学校だより、学年だより、ホームページ、一斉メール等で積極的に情報を発信した。昨年度に引き続き、見守り隊の方々とは話し合う場を設定し意見交流した。 • 外部講師を積極的にお招きし、児童の学びが深まった。また、消防署や郵便局、情報図書館、校区のお店等にも見学や取材に行くなど地域の方々にも多くの協力をいただいた。 <p>◎さらなる情報発信・収集・共有の方法の工夫をしていく。</p> <p>◎今後も地域や外部の資源を確保し、より効果的な教育活動を進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○HP、一斉メールなど、情報の早さや内容が昨年よりも充実してきている。先生方の努力がすばらしい。 ○保育園でも毎月避難訓練を行っている。避難場所になる野幌若葉小の体育館に行ってみる等できるところから連携を図っていききたい。

6 小中一貫教育（小中連携、小小連携、幼保こ小連携等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> • 令和5年度から小中一貫教育が本格実施となった。野幌中学校区の事務局校として積極的に連携を図ってきた。また、「野幌中学校区小中一貫教育HP」をつくり、取組の発信も進めてきた。 <p>◎めざす子ども像「夢に向かい行動する子」の実現に向け、さらなる小中連携、小小連携を進めていく。幼保こ小の交流も、できるところから取り組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナが5類に移行されたことにより、より充実された取組が実施されていくことを期待する。 ○幼保こ小連携についても工夫しながら交流することが今後の課題である。散歩の時等に園児と一緒に小学校の様子を見に来たり、グラウンドでの活動の様子を見に来たりすることも可能である。また、一斉公開日等に参観したり、小学校からも保育園の様子を見に行ったりと、できるところから進めていくとよい。

貴重なご意見を参考に、今後さらに子どもたちの学校生活がよりよいものとなるよう改善していきます。保護者の皆様や地域の皆様との情報共有や連携を密にしていきたいと考えますので、今後も積極的な情報発信・提供を心がけます。運営委員の皆様には、1年間たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

野幌若葉小学校の児童の健やかな成長のために、学校教育の充実に向けて職員一同努力してまいりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。